

就園のための情報共有シートの記載例

【氏名： Aちゃん】 【年齢： 3歳7か月】 【男児・女兒】
 【病名： 急性リンパ性白血病】

医学的な状況

医療機関名 (主治医/担当医)	A大学病院（主治医：A先生）		
受診状況	全ての入院治療が終わり、2～3週に1回、定期的に外来受診をしている。		
治療内容	維持療法として、①メトトレキサート（週1回・朝夕）、②メルカプトプリン（毎日・寝る前）、③スルファメトキサゾール・トリメトプリム（毎週水木曜日・朝夕）の内服をしている。今後15か月間続く。		
就園/集団生活が可能か (医師の許可)	退院後いつからでも可能。		
	配慮の有無		詳細
	有	無	
園で行う服薬や医ケア (医ケアが有る場合は内容を選択し詳細をお書き下さい)	☐	☒	医ケア：吸引（鼻腔内、口腔内、気管カニューレ内） 経管栄養（経鼻、経口、胃瘻）導尿、人工肛門、 酸素吸入、血糖測定、インシュリン注射、与薬、その他 ()
体調・症状（早期発見・早期対応方法）	☒	☐	内服治療（メルカプトプリン）のため、免疫機能が低下しているので、感染予防対策が必要。
緊急時の対応	☒	☐	外傷による出血や鼻出血が止まらない時は、救急搬送または主治医への連絡が必要。
その他			

発達・生活上の配慮

		配慮の有無		詳細
		有	無	
食事	哺乳	☐	☒	
	食事	☒	☐	生ものの摂取が禁止されている（スルファメトキサゾール・トリメトプリム内服中はずっと）。皮の薄い果物や生野菜は控える必要がある。水筒はストロー式の物はかびやすいので使用しない。
排泄		☐	☒	
睡眠		☐	☒	
遊び行動	身体機能 (運動機能)	☒	☐	治療や安静によって体力が低下している。他の子どもと同じように動けないことがあるので配慮が必要。医師の許可があるまで、ジャンプは禁止されている（ステロイド療法による骨粗鬆症の可能性があるため）。
	環境・場所 (室内・園庭・屋外) 散歩	☒	☐	プール、泥遊び、砂遊びは禁止されており、医師の指示で徐々に進めている。動物や生き物には、医師の指示があるまで触れてはいけない。埃っぽい場所は避ける（マット運動、工事現場、掃除の場など）

発達	言葉/表現	☐	☒	
	理解力	☐	☒	
	社会性	☐	☒	
その他		手洗い石鹸は個人の物を使用する。運動会などのイベントの参加はその都度主治医へ相談する。インフルエンザ、水痘流行時は登園しない。		

本人・保護者情報

本人の気持ち・様子	お友達と遊ぶのを楽しみにしている。
保護者の意向・気持ち	早く普通の生活を送らせたいので通園させたいが、通園することによって感染症に罹患するのではないかと心配している。
集団生活への理解	薬の副作用で脱毛があり、他の子どもから何か言われるのではないかと心配している。主治医からは数か月で髪は生えてくると言われている。
家族構成・配慮が必要な家族背景	父 38 歳、母 36 歳、妹 1 歳（保育園）と姉 6 歳（小学 1 年生）の 5 人家族。
その他	

園の調整内容

年齢相応のクラスでよい か	年齢相応のクラスで問題ない。
手帳の有無	身体障害者手帳 療育手帳 小児慢性特定疾病
加配の必要性	要・ 不要 └─▶ 理由： 担当者：保育士、看護師、介助員、保護者
設備・機材等	なし
地域連携機関の有無	あり・ なし └─▶ 連携先：療育・発達支援センター、訪問看護、保健師（行政）
関係機関の連絡先	
その他	なし

疾患の特徴や集団生活上のポイント

Aちゃんは標準リスク群に分類されるため、再発のリスクは低い。今後 15 か月間は内服治療が必要となるため感染しやすい状況が続くが、保育所で感染症が流行していなければ、マスクは着用しなくて良い。生ものの摂取禁止やジャンプの禁止は、定期受診で状況を見ながら徐々に許可されていく。9 か月の長期入院生活で体力が低下し疲れやすいため、活動は休憩しながら無理をさせないようにする必要がある。

記載 年 月 日 記載者